

# 公民館職員のものづくりの意識と実践の実態

—鳥取市公民館連合会報告書（2004年度）の分析と聞き取り調査から—

土井 康作\*・島田 拓\*\*

## Staff's Consciousness and Practice of Making Things at Community Center

DOI Kosaku\*, SIMADA Taku\*\*

キーワード：地域のものづくり実践 公民館 報告書分析 聞き取り調査

Key Words：Practice with Making Things, Community Center, An analysis of report, A fact-finding survey

### はじめに

今日、ものづくりが子どもの発達に重要な役割を果たすこと<sup>1)</sup>や我が国のものづくりの振興策にみられるような社会的要請があることなどを背景に、公共的な諸施設で地域教育としてのものづくりの実践が、全国各地で数多く取り組まれてきている<sup>2)</sup>。

とりわけ、振興策のものづくり基盤技術振興基本法 第十六条（学習の振興等）<sup>3)</sup>では、「学校教育及び社会教育におけるものづくり基盤技術に関する学習の振興、ものづくり基盤技術の重要性についての啓発並びにものづくり基盤技術に関する知識の普及に必要な施策を講ずるものとする。」と明記されている。さらに、社会教育法 第一章総則 第五条には、市（特別区を含む。）町村の教育委員会の役割を次のように明記している。社会教育として、「職業教育及び産業に関する科学技術指導のための集会の開催並びにその奨励に関すること。」<sup>4)</sup>の事務を行うことが示されている。また、第五章 第二十条公民館の目的は、「市町村その他一定区域内の住民のために、実際生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、もつて住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的とする」とある。これらの法を背景に、地域教育に関連した活動が、公民館や科学館や技術館などの諸施設の事業が実施されてきている。

公民館等の諸活動は、子ども達の生活空間により近いところで行われ、また学校教育の学習指導要領などに依拠しないなどの点において、指導者は子ども達に自由な発想をもって、社会にある技術的認識や技能を示すことができるという利点がある。かつて地域の中で、仲間や大人達から遊びながら身体を通して自然に獲得していたような技術的認識や技能の修得の機会を提供できる可能性が高いのである。つまり、地域の生活や文化創出、さらにはコミュニティの拠点となっている公民館などの社会教育によるものづくりの学びの意義は極めて大きいといえる。今後、これらの活動が単発的活動となるのではなく、持続的発展的に行われることが強く望まれるのである。

---

\* 鳥取大学地域学部地域教育学科

\*\* 豊岡市立五荘小学校

一方、指導者のものづくりへの理解やものづくりの教材観は、教育内容そのものの質に影響を与えるといえ、今後、指導者側のものづくり・技術的認識や技能の力量のあり方が、問われることとなろう。指導者の人たちが、つくることそのことのおもしろさと同時に、ものがつくられることの奥深さ、ものがつくられる時に求められる技術や科学の世界に誘える力量を備えたならば、当然、子ども達が学ぶものづくりには、広がりや深みがでてくるとともに楽しいものづくりができると考える。従って、今後、指導者が技術的認識や技能を学べる場の創出が、地域においてものづくりが広く行われる鍵になるであろう。

しかし、これまで、公民館などで行われている地域のものづくりの活動の主催目的、内容、諸施設間の連携の実態、さらには、職員のものづくりに関する技能形成の実態など基礎的な情報は集約され、分析されることはなかった。このように、地域におけるものづくり教育の科学的な先行研究は極めて少なく、ものづくりに関する地域教育のあり方が対症的、かつ場当たりの対応しか行われてこなかったといえよう。

これまで述べたように、子どものものでのづくりへの興味や関心を醸成したり、子どもの生活を豊かにしたり、さらにはものづくりの振興策を持続的・発展的に推進したりするためには、これらものづくりに関する地域教育的な活動の実態解明は欠かせないものといえる。

そこで、本研究では、地域のものづくりの指導者養成や地域のものづくり教育を推進するための指針を得ることを目的とした。方法は、ものづくりの事業が公民館の中で、如何におこなわれているか、実施の目的・施設の実態、地域教育におけるものづくりの実態、及び連携の状況について、聞き取り調査を行なった。

なお、本研究では、2つの調査をした。第1は鳥取市教育委員会と鳥取市公民館連合会が編集した報告書におけるものづくり事業の量的分析であり、第2は公民館職員を対象にした聞き取り調査による質的分析である。

## 調査 1

### 【方法】

「平成16年度 子どもと大人のふれあい事業」鳥取市教育委員会 鳥取市公民館連合会の報告書の資料から、公民館別に、実施月、ものづくりの実施内容を抽出した。また、製作物の材料の種類、季節に応じた製作物などについて分析し表示した。また、ものづくりの事業が全体事業に占める割合を算出し、比率で示した。

### 【結果及び考察】

表1は、旧鳥取市内の全地区公民館で行われた子どもと大人のふれあい事業の中で、ものづくりに関する事業（平成16年度）に関するものを抽出し、とりまとめたものである。表1は、公民館名、実施月、ものづくりの実施内容、ものづくりの事業が全体事業に占める比率を示した。

旧鳥取市内の地区公民館数は33館あり、そのうち、ものづくりを年間、一回以上実施していた地区公民館の数は26館であった。実施率は、78.8%であり、高い実施率といえる。

全地区公民館の年間の実施総数を算出すると、67回であり、地区公民館あたり1年間で平均約2回程度行われているといえる。

実施回数が多かった上位10の公民館を順に並べると、美保南地区公民館が8回、松保地区公民館

表1 『旧鳥取市内の地区公民館で行われたものづくりに関する行事（平成16年度）』

	公民館名	月	ものづくりの実施内容（平成16年度）	ものづくり／全体の行事（％）
市 街 地	久松地区公民館	8	廃材利用 木工教室	1／18件（木） 6％
	醇風地区公民館	7	紙漉き体験 青谷和紙工房	2／30件（紙）（木） 7％
		11	創作体験 子どもの国木工工房	
	遷喬地区公民館	7	はりがねアート作り	3／16件（金）（他） 19％
		8	親子で工作体験	
		11	ぞうり作りに挑戦しよう	
	修立地区公民館	7	七夕かざりを作ろう	1／26件（季） 4％
	日進地区公民館		なし	0／27件 0％
	富桑地区公民館	7	木工倶楽部 手ごま割箸鉄砲他	2／53件（木） 4％
		10	割箸鉄砲紙飛行機作って遊ぶ	
明德地区公民館	7	木工教室	3／24件（木）（他） 13％	
	12	しめ縄飾り作り		
	3	作って遊ぼう 科学遊び		
美保地区公民館	10	手芸 ミニかべ飾り	2／15件（他）（季） 13％	
	12	手芸 クリスマスリース作り		
美保南地区公民館	5	工作クラブ①「すのこプランター作り」	8／35件（木）（他）（季） 23％	
	6	工作クラブ②「プラモデル作り」		
	7	工作クラブ③「プラモデル作り」		
	8	工作クラブ④「ジオラマ見に行こう」		
	9	工作クラブ⑤「ジオラマを作ろう」		
	10	工作クラブ⑥「ジオラマを作ろう」		
	10	工作クラブ⑦「文化祭にむかって頑張ろう」		
	12	工作クラブ⑧「クリスマスリース作り」		
邑 法	稲葉山地区公民館	7	七夕会 短冊作り・飾りつけ	1／14件（季） 7％
	岩倉地区公民館	7	七夕まつり 笹の飾り付け作り	2／15件（季） 13％
		12	いわくらこどもじゅく スノードーム作り	
	面影地区公民館	5	デイサービス交流会 お手玉作り	5／24件（手）（紙）（木）（他） 21％
		7	作って遊ぼう	
		10	面影フェスタ 手作りおもちゃ	
		10	公民館祭 ものづくりコーナー	
		12	カレンダー作り	
	津ノ井地区公民館	10	「工作教室」 竹とんぼ・竹笛他	1／19件（木） 5％
	若葉台地区公民館		なし	0／9件 0％
米里地区公民館	7	自分たちで家を作ってみよう	1／17件（紙） 6％	
倉田地区公民館		なし	0／16件 0％	
千 代	神戸地区公民館		なし	0／30件 0％
	大和地区公民館		なし	0／27件 0％
美穂地区公民館	6	和紙のランプ作り（全2回）	5／15件（紙）（木）（手）（季） 33％	
	8	木のおもちゃ作り		
	9	手芸を楽しむ ビーズで花作り		
	12	クリスマスノーマン作り		
	1	竹でタコ・スキー作り		
東郷地区公民館	1	竹細工 タコ作り	1／20件（木） 5％	
大正地区公民館	8	地区夏祭り 「親子ダンボール工作等」	1／18件（紙） 6％	

湖南	豊実地区公民館	なし	0/20件	0%	
	明治地区公民館	8	夏休み工作教室	2/12件 (季) (紙)	16%
		12	クリスマスキャンドル作り		
	松保地区公民館	7	七夕かざり作り	6/31件 (季) (電) (手) (紙) (他)	20%
		8	風鈴を作ろう		
		8	電気を作ろう		
		10	テーブルリース作り		
		11	ストロー飛行機作り		
	湖南地区公民館	11	バルーン工作	2/20件 (他) (季)	10%
		12	ミニ門松作り		
湖東	末恒地区公民館	10	公民館まつり 「エコ工作・ビーズ工作」	1/18件 (手)	6%
	湖山地区公民館	10	公民館祭 親子の木工体験	1/26件 (木)	4%
	湖山西地区公民館	なし	0/43件	0%	
	賀露地区公民館	6	リサイクル工作 (4年生対象)	3/21件 (他) (木)	14%
		6	冒険きち 木工工作		
		9	冒険きち 竹細工		
	城北地区公民館	5	おはなしと工作の会	3/23件 (紙) (木)	13%
		9	木のおもちゃ作り		
		10	大型紙芝居作り		
	千代水地区公民館	12	親子クリスマス会キャンドル作り	1/46 (季)	2%
	浜坂地区公民館	8	夏休み作品作り	3/37件 (季) (他)	8%
		10	エコ工作		
		12	粘土で作るクリスマスツリー		
中ノ郷地区公民館	5	和紙を使った工作 プローチ作り	6/40件 (紙) (季) (他) (木)	15%	
	6	廃油せっけんとキャンドル作り			
	8	リサイクル学習と工作			
	10	リサイクル工作と楽器遊び			
	12	アクリルたわし作り			
3	昔遊び 竹馬作り				

※ (季) : 季節に応じたものづくり内容 (木) : 木工関係のものづくり (金) : 金属加工関係のものづくり  
 (電) : 電気関係のものづくり (手) : 手芸関係のものづくり (紙) : 紙を使ったものづくり  
 (他) : その他のものづくり

と中ノ郷地区公民館が6回、面影地区公民館と美穂地区公民館が5回、さらに遷喬地区公民館と明德地区公民館と城北地区公民館と浜坂地区公民館そして賀露地区公民館が3回であった。最も多かった美保南地区公民館は、工作クラブが毎月定期的に行われており、安定して実施されていることがわかった。

公民館では様々な事業が行われているが、ものづくりの事業が全体事業に占める比率を算出した。その結果、最も大きな比率を示したのが、美穂地区公民館33%であり、続いて美保南地区公民館23%、面影地区公民館21%、松保地区公民館20%であった。これらの公民館は、ものづくり活動に比較的大きな比重がかけられており、ものづくりが重視されていることがわかった。

実施月をみると、1月2回、2月0回、3月2回、4月0回、5月4回、6月5回、7月11回、8月10回、9月4回、10月13回、11月4回、12月12回であった。

このことから、7月や8月は夏休みの期間であること、10月は秋の地区まつりの期間であること、さらに12月は冬休みの期間でクリスマスやお正月に向けてのものづくりをしていることの為に、ものづくりが多くなっていると推察した。一方、1月から4月にかけて、この季節の行事の数は少なく、また年度末や年度はじめということから、ものづくりの事業が少なくなっていると考えられる。

ものづくりの実施内容をみると、おもちゃなどを作って遊ぶというものづくり（おもちゃ、竹馬、竹とんぼ、凧、スキー、飛行機、割り箸鉄砲、お手玉など）が18件ともっとも多かった。また、季節にあったものづくりは、七夕（七夕飾り4件）、クリスマス（クリスマスツリーなど6件）、正月用品（門松、しめ縄など5件）など15件と続いて多かった。興味深いものとして、環境教育に関わったものづくりがなされており、廃材やエコロジー、リサイクルなど（廃材利用の木工、エコ工作、リサイクル工作など）7件あった。さらに鳥取県の青谷の紙漉なども行われていた。

このようなことから、主催者は作って遊ぶ道具づくりや季節にあったものづくり、さらには環境に関係したものづくりを指向していると考えられる。また、参加の対象は、ものづくりの難易度から見ると、幼稚園から小学校中学年程度を対象にしたものづくりであると考えられる。

材料は、紙、木、竹など身近な素材を使用していることが分かった。しかし、電気などのものづくりは少なかった。

このように、紙、木、竹など身近な素材であり道具は手工具に限定されていること、また電気や機械等を扱った現代的な技術に関するものづくりには広がっていないことが推察できる。

## 調査2

### 【方法】

鳥取市の地区公民館33館のうち、2004年度（平成16年度）実績（「平成16年度 子どもと大人のふれあい事業」鳥取市教育委員会 鳥取市公民館連合会の報告書の資料）で、全事業数に占めるものづくりの実施率が14%（O地区公民館）の中程度施設1館、8～4%（H地区公民館、K Y地区公民館、S地区公民館）の低い施設3館、0%（K N地区公民館）の行われていない施設1館、以上5館を抽出し検討した。（2005年度集計では、K地区公民館のものづくりの実数（2005年では3件であった）は7件であり、S地区公民館（2005年では1件であった）も6件と多くなっていた。）

対象者は、各館の主事、主任、館長など、合計7名である。3名の場合は同時に立ち会い、確認を行いながら聞き取りを行った。なお、聞き取りは、ボイスレコーダにより採録し、その後、要点を書き起こし、分析した。

聞き取りの質問項目の内容（資料 表2～表6）は、以下の①～⑧についてである。

①ものづくりの主な内容 具体的なものづくりの内容と名称

②期日・場所について

（1）いつどこで行っているか。（2）組織について。（3）毎年行っているか。

③会場・設備について

（1）場所の広さ。（2）設備は公民館にそろっているか。（3）道具はどのように集めているか。（4）道具は誰が準備しているか。

④講師について

（1）講師の所属。（2）どのように講師の方に依頼しているか。

## ⑤予算について

- (1) 予算はどのくらいか。(2) 予算はどこから得たか。(3) 講師料は払っているか。

## ⑥連携について

- (1) 他館と連携しているか。(2) どの程度の情報交換か。(3) その他の連携はあるか。

## ⑦職員の意識について

- (1) 宣伝はしているか。(2) 学校はスムーズに受け取ってくれるか。(3) 親の反応。  
 (4) 職員がものづくりを教えることがあるか。(5) 誰から教えてもらっているか。  
 (6) 講師がいなくても実施する気持ちはあるか。

## ⑧ものづくりをする目的

なぜものづくりを行うか、目的及び理由

## 【結果】

結果は、各館毎に分け分析した。聞き取りした一例を、表2～表4に示した。

表2 K地区公民館

①公民館名	K地区公民館
②訪問日時	2005/11/4 (金) 午前10時～11時
③職歴について	(1) [非常勤]・常任・専任 (2) この公民館に来て何年目か。(16)年目 女性の職員の方(主事)
④ものづくりの実施数	年間(7)個以上
⑤ものづくりの主な内容	・「8月」:夏休み工作教室で、クランクカーとボンボン蒸気船作り ・竹を使ったローソク ・台風で倒れた木を使ったエコ工作(プランターなど) ・アルミ缶で風車作り ・冒険きちでのものづくり(竹細工、ビーズ、木工作etc) ・リファレンスいなばでのガラス細工(中学生対象) ・葦を使った紙すき
⑥期日・場所について	(1) いつどこで行われているか。 ・休日(主に土曜日) ・場所は公民館のロビーや外、また他の施設等に出向いて行うことも多い。 (2) 組織について。 ・子どもと大人のふれあい事業(冒険きちも含む) ・人づくり事業 ・特色ある公民館活動(子どもエコクラブなど) (3) 毎年行われているのか。 ・子どもと大人のふれあい事業を中心に動いているが、ものづくりの実施や内容は固定されていない。年によって違う。
⑦会場・設備について	(1) 場所の広さ。 ・公民館内のフリースペースは広い。公民館での活動は大体この場所で事業を行っている。 (2) 設備は公民館にそろっているか。 ・ほとんどそろっていない。 (3) 道具はどのように集めているのか。 ・であいの森に知り合いの方がおられて、であいの森がたくさん道具を持っているので、そこから必要な道具を借りている。 (4) 道具は誰が準備しているか。 ・であいの森の職員の方や、場合によっては個人的にお願いした職人の方など。



⑧講師の人について	<p>(1) 講師はどんな人か。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方，ボランティアの方，施設の方，鳥大生など。</li> </ul> <p>(2) どのように講師の方に依頼しているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まずは電話で了解を得て，それから講師の方を訪問し，詳しく話を進めていく。</li> </ul>
⑨予算について	<p>(1) 予算はどのくらいか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間13万と，後半に補助で5万7千円を合わせてもらっている。</li> </ul> <p>(2) どこから得ているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人づくり事業：公民館におりるお金。市（鳥取市公民館連合会）から予算を得ている。</li> <li>・子どもと大人のふれあい事業：公民館経由で地域の団体におりるお金。市の生涯学習課から予算が出ている。</li> </ul> <p>(3) 講師料は払っているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来ていただいた講師の方や地域の方には払っている。ものづくりだけでなく，夏の水泳教室などでも払っている。</li> </ul>
⑩連携について	<p>(1) 他館と連携はしているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他館との連携はしていない。あまり必要性を感じていないので，これについては力を入れていない。しかし，もし連携して1つのことをやってみることで新たな発見は出てくると思う。</li> </ul> <p>(2) どの程度の情報を交換しているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブロック内での電話やメールの交換。</li> <li>・職員の研修，ブロックの研修，職員ごとの立場での研修などで他館の職員の方との情報交換。</li> </ul> <p>(3) その他との連携はあるのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校，海上保安所，かっこ館，リファーレンいなば，NPO賀露おやじの会などを中心近く施設との連携は非常に充実している。あとは，インターネットなどを利用してさまざまな施設を探している。</li> </ul>
⑪職員の意識について	<p>(1) 宣伝はしているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館だより，場合によっては参加者募集のちらしの配布など。</li> </ul> <p>(2) 学校はスムーズに受け取ってくれるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校とは協力して活動している（夏の水泳教室など）ので，公民館の活動に対してはスムーズに受け入れてくれる。</li> </ul> <p>(3) 親の反応。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やはり，低学年の参加が多い。いい企画だから参加させるという場合はあまりなく，「家に閉じこもっているよりは」という思いで，公民館に子どもを預ける形の保護者が多い。</li> </ul> <p>(4) 職員がものづくりを教えることがあるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教えられる範囲でなら教えているが，公民館の職員は企画と補助の仕事が中心になるので，なかなか教えるということではできていない。</li> </ul> <p>(5) 誰から教えてもらっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・以前は，講師や職人の方を訪ねて事前に作り方を教えてもらうことをやっていたそうだが，現在はいろいろな事業をかかえているため忙しくなり，そのようなことが難しくなってしまった。</li> </ul> <p>(6) 講師がいなくても実施する気持ちはあるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ものによる。自分たちで教えられるような内容であればやりたい。必要な道具や機材などは「であいの森」や「リファーレンいなば」で借りたり，利用することができるので，やろうと思えばできる。しかし難しいことはできない。</li> </ul>
⑫ものづくりをする目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちにいろいろな体験をさせたい。そこから感動や楽しさも感じて欲しい。一歩外に出てものを作ることによって達成感を得ることができる。ものをつくる時に自分なりに考える力がつく。学校での生活などを一切シャットアウトして，子どもの素のままに作らせると，学校の評価と一切違う評価ができる。また，子どもの新たな面を地域で育てたい。という気持ちが大きい。</li> <li>・職員の方自身がものづくりが好きで，できた時の達成感などをもともと知っているため，進んでもものづくりを取り入れている。</li> </ul> <p>※地域の方を取り込みながら充実した活動を行っている。ものを作らせる時に一方的に作らせるのではなくて，どんなものを作りたいかのアイデアを子どもたちから募集して内容を決めている。</p>

⑬その他の主な行事	・3つの事業（子どもと大人のふれあい事業、特色ある公民館活動、人づくり事業）を中心にいろいろなことに取り組んでいる。夏の水泳教室は児童100名ぐらいを対象に大掛かりにしている。
-----------	--

表3 S公民館

①公民館名	S公民館
②訪問日時	2005/10/20（木） 午前10：00～10：30
③職歴について	(1) <u>非常勤</u> ・常任・専任 (2) この公民館に来て何年目か。（未） 女性の職員の方
④ものづくりの実施数	年間（6）個
⑤ものづくりの主な内容	・対象は幼、小、中、高であるが、参加する子どものほとんどが低学年の子どもたち。 「8月」：①紙で作るエコバック、②木工教室、③ごみごみ虫づくり 「10月」：④公民館まつり（竹細工など） 「11月」：⑤竹細工、⑥押し花のはがき作り
⑥期日・場所について	(1) いつどこで行われているか。 ・毎週第4土曜日に公民館内で (2) 組織について。 ・末恒っ子クラブの事業（年間14回の枠組みで動いている） (3) 毎年行われているのか。 ・年によってバラバラでものづくり以外のこともやっている。 ・夏の木工教室は毎年行われているが、作る内容は変わっている。
⑦会場・設備について	(1) 場所の広さ。 ・公民館の2階の部屋（20～30人くらい入るスペース） (2) 設備は公民館にそろっているか。 ・全然そろっていない。人数分そろっていない。 (3) 道具はどのように集めているのか。 ・木工道具は智頭の職人さんから借りている。（講師で来てくださる方から） ・ハサミやノリなどは子どもたちに各自持ってきてもらう。 (4) 道具は誰が準備しているか。 ・公民館の職員の方が依頼をして、来てくださる講師の方が準備をして持ってきてくださったり、簡単な道具であれば参加する子どもたちに連絡をして各自持ってきてもらう。
⑧講師の人について	(1) 講師はどんな人か。 ・智頭の木工職人。（だいたい毎年この方）、鳥大生、保護者の方。 (2) どのように講師の方に依頼しているのか。 ・電話連絡。毎年のことなので、詳しい日時を連絡し、来てもらっている。
⑨予算について	(1) 予算はどのくらいか。 ・市から予算をもらっている。そのほとんどは講師料として使われている。 ・少ない金額なので、なかなか道具代や材料代などにまわせない。 (2) どこから得ているのか。 ・だいたい市の教育委員会から。 (3) 講師料は払っているのか。 ・少ないが払っている。大学生はボランティアで来てもらっているので払っていない。



⑩連携について	<p>(1) 他館と連携はしているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携はしていない。メールや電話での情報交換程度（同じブロック内の公民館と）。</li> </ul> <p>(2) どの程度の情報を交換しているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行っている事業の内容を交換したり，他館でやっていることを参考にして，自分の公民館の事業にも生かせるようにしている。</li> <li>・どのような講師の方に依頼をしているのかも情報交換している。</li> </ul> <p>(3) その他との連携はあるのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館以外との連携はない。</li> </ul>
⑪職員の意識について	<p>(1) 宣伝はしているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館だよりの発行。必要に応じてイベントの案内の紙などを配布している。</li> </ul> <p>(2) 学校はスムーズに受け取ってくれるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題なく受け取ってくれる。</li> </ul> <p>(3) 親の反応。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館で行われている事業の内容は伝わっているものの，そういうことに意欲的な保護者の方しか参加しない。いつも決まった人が参加している状態。</li> <li>・参加費が少しでもかかればますます参加率が悪くなってしまう。</li> </ul> <p>(4) 職員がものづくりを教えることがあるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもと一緒に作るのは多々あるが，職員が教えるということはない。</li> </ul> <p>(5) 誰から教えてもらっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教えることがないので，事前に誰かに教えてもらうということはない。</li> </ul> <p>(6) 講師がいなくても実施する気持ちはあるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもがたくさん集まるのであればやりたいが，予算的な問題や道具の問題，教えられることに限りがあるなどの理由でなかなか実施できない。</li> <li>・できるだけ参加費は無料で実施したいが，それも難しいのでできない。</li> </ul>
⑫ものづくりをする目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあい事業が推進されているように，地域のいろいろな人とふれあうことが一番の目的である。子どもの発達や発展を地域ぐるみで支援できる，地域で子どもを育てていける環境づくりのためにもものづくりを行っている。</li> </ul>
⑬その他の主な行事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未恒っ子クラブを中心に動いている。ものづくりだけではなく読み聞かせや料理，お菓子作り，農園の草取り，昔の遊びなども行っている。</li> <li>・保護者や老人の方を対象に，お菓子作り，コーラス，ピアノ，書道，茶道，俳句などの教室やサークルも活発である。</li> </ul>

表4 KN地区公民館

①公民館名	KN地区公民館
②訪問日時	2005/12/20（火）
③職歴について	<p>(1) <input type="checkbox"/>非常勤・常任・専任</p> <p>(2) この公民館に来て何年目か。（6・3・1年目）</p> <p style="text-align: right;">女性の職員の方</p>
④ものづくりの実施数	年間（4）個
⑤ものづくりの主な内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・湖山西小学校の全校生徒数345名だが，基本的に子どもたちはスポーツクラブや習い事で忙しく，参加率はあまりよくない。</li> <li>「5月の母の日」：フラワーアレンジメント（対象：小学校全学年，参加人数：20名）</li> <li>「7月」：ビュンビュンゴマ作り（対象：全学年，参加人数：30名）</li> <li>「8月」：リサイクル工作（対象：全学年，参加人数：24名）</li> <li>「1月」：レジ袋で凧作り（対象：全学年，参加人数：20名）</li> </ul>

⑥期日・場所について	<p>(1) いつどこで行われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土曜日に公民館内の広間で行われる。</li> </ul> <p>(2) 組織について。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まとまった組織はない。</li> </ul> <p>(3) 毎年行われているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休みの工作は子どもたちの夏休みの宿題にあたるように毎年固定して行っている。(工作の内容は年々変わっている)</li> </ul>
⑦会場・設備について	<p>(1) 場所の広さ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二階の広間 (50名ぐらい入る広さ)</li> </ul> <p>(2) 設備は公民館にそろっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小刀, カッターナイフ, ノコギリ, のり, はさみは人数分そろっている。</li> </ul> <p>(3) 道具はどのように集めているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木工の場合, 県の森林組合の「森のめぐみ館」に行って実施したり, 必要だが公民館にないものはそこから借りている。</li> </ul> <p>(4) 道具は誰が準備しているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館で行う場合は全て職員が準備している。子どもに持って来てもらうことはほとんどない。</li> </ul>
⑧講師の人について	<p>(1) 講師はどんな人か。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方で, 木工なら木工の技術を持った方に来てもらっている。職人ではない。できるだけ地域の方に講師をお願いするようにしている。</li> </ul> <p>(2) どのように講師の方に依頼しているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こういう方がいるという情報を公民館に来られる地域の人から教えてもらい, それから電話で依頼する。いつも快く依頼を受けてくださる。</li> <li>・他の公民館から横のつながりで講師の方を紹介してもらう。</li> </ul>
⑨予算について	<p>(1) 予算はどのくらいか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ものづくりはものづくりで予算が決まっているということではないので, 固定された金額は分からない。</li> </ul> <p>(2) どこから得ているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県の教育委員会, 足りない分は公民館の地区費, 自治会の助成などで補っている。</li> <li>・参加者の個人負担 (少ない金額の場合) の時もたまにある。</li> </ul> <p>(3) 講師料は払っているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般の講師, 学生関係なく講師料は払っている。</li> <li>・個人個人に払うのではなくて, 団体に払っている。</li> </ul>
⑩連携について	<p>(1) 他館と連携はしているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協力して1つの事業をしようとすることはなかなか難しいので行っていない。</li> <li>・近くの公民館と情報交換程度。</li> </ul> <p>(2) どの程度の情報を交換しているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の全館の情報がまとまって各公民館に入ってくる。</li> <li>・近くの公民館から講師の方を紹介してもらったりしている。</li> <li>・メール交換や研修の時の情報交換など。</li> </ul> <p>(3) その他との連携はあるのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館以外の施設や団体などとは連携していない。</li> </ul>

⑪職員の意識について	<p>(1) 宣伝はしているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月1回公民館のお知らせを町内会に全戸配布する。(町内会ごとに文書箱が設置しており、各町内会長が取りに来られる。)</li> <li>・子どもに関する事業の場合は小学校に家庭数持っていつている。</li> </ul> <p>(2) 学校はスムーズに受け取ってくれるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受け取ってくれる。</li> </ul> <p>(3) 親の反応。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが参加したいと思っても、朝早かったり、道具が必要だったり、参加費がいるという理由でなかなか参加率は上がらない。</li> <li>・公民館には直接保護者の反応が入ってこないで詳しい反応はわからない。</li> </ul> <p>(4) 職員がものづくりを教えることがあるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビュンビュンゴマは職員が教えた。職員が教える立場になることはなかなかない。</li> </ul> <p>(5) 誰から教えてもらっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビュンビュンゴマの場合は、以前働いていた公民館で教えたことがあったので、その時だけ職員が教えた。誰かに教えてもらったということではない。</li> </ul> <p>(6) 講師がいなくても実施する気持ちはあるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本来職員はサポート的な立場なので、主になって教える立場にはまわらない。だからそのような気持ちはあまりない。</li> <li>・実施したい時にどうしても講師の方が見つからなかったら、職員のできる範囲で実施しようとは思う。</li> <li>・教えるにはそれなりの経験や技量が必要となるので、簡単にはできない。</li> </ul>
⑫ものづくりをする目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今の子どもたちは何かをつくることがあまりないので、ものづくりを実施することでいろいろな経験をさせてやりたいという思いから。</li> </ul>
⑬その他の主な行事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・湖山池に関する事業。(船に乗って湖山池を回ったり、湖山池1周バスツアーなど)</li> <li>・秋は久松山に登る。</li> <li>・年に4回お話会がある。</li> <li>・10月の公民館祭では、以前はものづくりをやっていたが今はやっていない。</li> </ul>

## 【考察】

### 1. ものづくりの内容

K地区公民館は7件、S地区公民館は6件であった。KN地区公民館は4件、H地区公民館は3件、KY地区公民館は0件であり、前年度より、ものづくりの事業の件数は増加傾向にあった。

多かった2館の内容をみると、K地区公民館は、①クランクカーとポンポン蒸気船作り(夏休み工作教室で)、②竹を使ったローソク、③台風で倒れた木を使ったエコ工作(プランターなど)、④アルミ缶で風車作り、⑤冒険基地でのものづくり(竹細工、ビーズ、木工等)、⑥リファレンいなばでのガラス細工(中学生対象)、⑦葦を使った紙すきなどであった。小学校から中学生を対象に、金属、木材、紙、ガラス、草など多様な素材を使い内容が充実していることがわかった。短時間で、仕上がらないものづくりであり、ものづくりや自然の体験を重視している公民館であることが分かった。

S地区公民館は、①紙で作るエコバック、②木工教室、③ごみごみ虫づくり、④公民館まつり(竹細工など)⑤竹細工、⑥押し花のはがきづくりなどであった。小学校から高校生までを対象にしていたが、参加した子どもは、低学年の子どもたちであった。木、竹、紙などを素材に使った、作品づくりであった。

KN地区公民館は、①フラワーアレンジメント、②ビュンビュンゴマ作り、③リサイクル工作、

④レジ袋で凧づくりであり、比較的時間を要しないものづくりを行っていると考えられる。

H地区公民館は、①ステンドグラスのコップ、砂絵づくり、②健康ウォーキングで砂丘の植物を使って、ほうきや浮き輪を作る、③公民館祭のものづくりスペースで小鳥の巣箱・糸電話・ストロー笛であった。事業の回数は少ないが、多様な素材で多くの作品づくりを行い、隣接する砂丘など、自然に接することを意図した積極的な取り組みが行われていると考えられる。

## 2. 期日及び組織について

主に土曜日に行っており、さらに夏休み工作教室のような形式で毎年行っていた。鳥取市地区公民館の組織としては、公民館連合会として「子どもと大人のふれあい事業」の一貫として行われていた。

## 3. 会場設備

会場と設備を個別的にみると、K地区公民館やS地区公民館では、作業が出来る広い会場はあるが、そこには作業台の設備や道具・機械等は整えられてはいなかった。道具は参加者が持参するか、講師に依頼していた。

KN地区公民館は、小刀、カッターナイフ、ノコギリ、のり、はさみは人数分そろっていた。また、木工の場合、県の森林組合の「森のめぐみ館」に行って実施し、必要だが公民館にないものはそこから借りていた。さらに、道具は、公民館で行う場合は全て職員が準備していた。子どもに持って来てもらうことはほとんどないと回答している。

しかし、この館は、事業の取り組み回数は低く、ものづくりへの関心度が低いため、道具等の利用度が低くなっていると推察した。

H地区公民館では、のり、はさみや玄翁など基本的な道具については必要な時すぐ使えるように公民館にそろえ、数的には10～20個ぐらいある。できるだけ公民館にある道具を使ってできる内容を考えている。どうしても公民館にない場合は、講師の方に準備してもらっている。道具についてはほとんど公民館で準備しているが、材料やキットは講師や職人の方に準備してもらうことが多い。

以上のように、ものづくり事業を比較的多く積極的に行っている館では道具がなく、少ない館では、道具を揃えているという実態があることが分かった。このような、ものづくりを行う場合には、環境の整備が求められる。

## 4. 講師について

講師は、ボランティアや施設職員、大学生、木工の職人であり、随時連絡を取っていることが分かった。

## 5. 予算について

ものづくりの予算は、人づくり事業、子どもと大人のふれあい事業に関わるものであった。また、講師料は、ボランティアには出さないが、職人さんには出す、また団体には支払うが、個人には出さないなど、各館で異なっていた。しかし、全体の経費が限られているので、材料費や道具代などの購入に、経費がまわせない状況であり、整備が進んでいないと推察した。

## 6. 連携について

「他館との連携はしていない。あまり必要性を感じていないので、これについては力を入れていない。しかし、もし連携して1つのことをやってみることで新たな発見は出てくると思う」また、「他館とは情報交換程度であり、大体は公民館単位でやっている」と調査対象の全館が回答している。ただし、「近くの公民館から講師の方の紹介がある」、「メール交換や研修の時の情報交換などは行っている」といい、講師などの情報交換は行われているといえる。市内の全館の情報がまとまって各公民館に入ってくると回答しているが、館相互間において、ものづくりの作る内容や、講師、施設設備、あるいは研修などの情報連絡が出来るならば、もっと活発なものづくりの活動が展開できるといえよう。

以上のように、ものづくりに関わる公民館相互の連携は、きわめて弱いといえ、それぞれの公民館毎の発想によって、運営がなされていると考えられる。

## 7. 職員の意識について—ものづくりに関する施設内研修の状況

ものづくりのイベントの広報は、公民館だより、学校等を通して行っている。

やはり、低学年の参加が多く、いい企画だから参加させるという場合はあまりない。「家に閉じこもっているよりは」という思いで、公民館に子どもを預ける形の保護者が多い。また、公民館で行われている事業の内容は伝わっているものの、そういうことに意欲的な保護者の方しか参加しない。いつも決まった人が参加している状態。さらに参加費が少しでもかかればますます参加率が悪くなってしまう。子どもたちが参加したいと思っても、朝早かったり、道具が必要だったり、参加費がいるという理由でなかなか参加率は上がらない。内容によって変わってくる。料理などは参加率が良い。参加賞があったり、参加費が無料だったりすると反応も良い。などと回答している。

このように、親の意識、道具の持参や参加費の問題等によって参加の状況が変わってくるのが分かった。

## 8. 職員のものづくりへの目的意識の検討

多くものづくりを実施していたK地区公民館の職員は、「子どもたちにいろいろな体験をさせた。そこから感動や楽しさも感じて欲しい。一歩外に出てものを作ることによって達成感を得ることができる。ものをつくる時に自分なりに考える力がつく。学校での生活などを一切シャットアウトして、子どもの素のままに作らせると、学校の評価と一切違う評価ができる。また、子どもの新たな面を地域で育てたい。」と述べている。さらに、職員の方自身がものづくりが好きで、できた時の達成感などをもともと知っているため、進んでものづくりを取り入れているといえる。実施に際しては、地域の方を取り込みながら充実した活動を行っている。また、ものを作らせる時に「一方的に作らせるのではなくて、どんなものを作りたいかのアイデアを子どもたちから募集して内容を決めている。」と述べている。

このように職員が、ものづくりに関心を持ち、さらに、子どもの視点に立ったものづくりを行っていることが理解できる。

ふれあい事業が比較的推進されている館では、「地域のいろいろな人々とふれあうことが一番の目的であることや子どもの発達や発展を地域ぐるみで支援できる、地域で子どもを育てていける環境づくりのためにもものづくりを行っている」との回答もあった。

以上のように、諸施設でみられるものづくりをする目的は、子どもたちにいろいろな体験をさせ、



ものづくりの楽しさ、考える力の獲得、達成感の獲得、地域のいろいろな人々とふれあわせ、地域で子どもを育てていける環境づくりのために行っていることがわかった。公民館の利点は、子どもたちの評価が学校教育と違ったものになることであり、教科学習に偏らず、伸び伸びと子どもたちが活動できるという点で、極めて意義があるといえよう。

## 9、職員の講師や研修について

職員のものづくりを行う講師への意欲や、ものづくりの研修などについて回答を求めた。K地区公民館では、教えられる範囲でなら教えることができるが、公民館の職員は企画と補助の仕事が中心になるので、なかなか教えるということではできていない。また以前は、講師や職人の方を訪ねて事前に作り方を教えてもらうことをやっていたが、現在はいろいろな事業をかかえているため忙しくなり、そのようなことが難しくなったと回答した。次に、講師がいなくても実施する気持ちはあるかの問いに対し、自分たちで教えられるような内容であればやりたいと積極的な回答をしている。また、必要な道具や機材などは財団法人の「であいの森」や「リファーレンいなば」で借りたり、利用したりすることができるので、やろうと思えばできる。しかし、難しいことはできないとその限界も示している。

その他の館をみると以下の通りである。その多くが、職員が教える立場になることはなかなかないと答えている。誰から教えてもらっているかについては、ビュンビュンゴマの場合は、以前、働いていた公民館で教えたことがあったので、その時だけ職員が教えた。ただし、誰かに教えてもらったということではない。講師がいなくても実施する意思については、本来職員はサポート的な立場なので、主になって教える立場にはまわらない。だからそのような気持ちはあまりない。

実施したい時にどうしても講師の方が見つからなかったら、職員のできる範囲で実施しようとは思う。教えるにはそれなりの経験や技量が必要となるので、簡単にはできないと答えている。

やはり、K地区公民館の職員のように、ものづくりへの目的意識が高い職員の所属する館では、積極的な研修への意欲や教えることへの意欲が高いことがわかった。一方、ものづくりへの目的意識が低い職員が所属する館では、研修の必要性や講師として教えることへの意識も低いといえる。

## 10、まとめ

本研究では、鳥取市の地域教育として行われている公民館のものづくりの実態や連携の実態を明らかにすることを目的とした。

その結果、各館では作って遊ぶ道具をつくることや季節にあったものづくり、さらには環境的な教育を加えたものづくりを指向していること、参加の対象は、ものづくりの難易度から見ると、幼稚園から小学校中学年程度を対象にしたものづくりであることが分かった。また、材料は、紙、木、竹など身近な素材を使用していること、電気などのものづくりは少ないことがわかった。つまり、紙、木、竹など身近な素材であり道具は手工具に限定され、電気や機械等を扱った現代的な技術に関するものづくりには至っていないことがわかった。

次に、ものづくりへの目的意識が高い職員の所属する館では、積極的な研修への意欲や教えることへの意欲が高いことが分かった。さらにはものづくりに関する公民館の連携への積極的な姿勢があることがわかった。

今後の課題として、ものづくりの関係者をコーディネートすることの重要性について、職員を対象にした地域教育におけるものづくりの連携のあり方などについて考察が残されている。さらには、



ものづくりの研修のあり方などについての検討も加える必要があると考える。

#### 引用文献

- 1) 須藤敏昭 現代っ子の遊びと生活 1991 青木書店
- 2) 2010年版ものづくり白書（ものづくり基盤技術振興基本法第8条に基づく年次報告） 2010経済産業省  
厚生労働省 文部科学省
- 3) 2) 同上
- 4) 平成22年版 教育小六法 市川 須美子他 2010学陽書房
- 5) 官報1999 大蔵省印刷局 第2589号 p.3. (学習の振興等)

第十六条 国は、青少年をはじめ広く国民があらゆる機会を通じてものづくり基盤技術に対する関心と理解を深めるとともに、ものづくり基盤技術に関する能力を尊重する社会的気運が醸成されるよう、小学校、中学校等における技術に関する教育の充実をはじめとする学校教育及び社会教育におけるものづくり基盤技術に関する学習の振興、ものづくり基盤技術の重要性についての啓発並びにものづくり基盤技術に関する知識の普及に必要な施策を講ずるものとする。

(2011年1月19日受付, 2011年1月27日受理)